

Paris 2024

イマジン 平和への力に

スポーツ文化評論家 玉木正之さん

女子1000メートルバタフライ準決勝
レースを終えプールから出る池江



一体に戻れていない。2025、26年にベストな状態になると思っている」と展望する。白血病からの完全復活に向けて一つのステップを踏んだことは間違いないが、それだけでは満足できない。「五輪は出るだけじゃつまらない。4年後、リベンジしに戻ってこようという気持ちになった」と池江。次のロサンゼルス五輪こそ、メダルを争える位置に帰ってきてみせる。

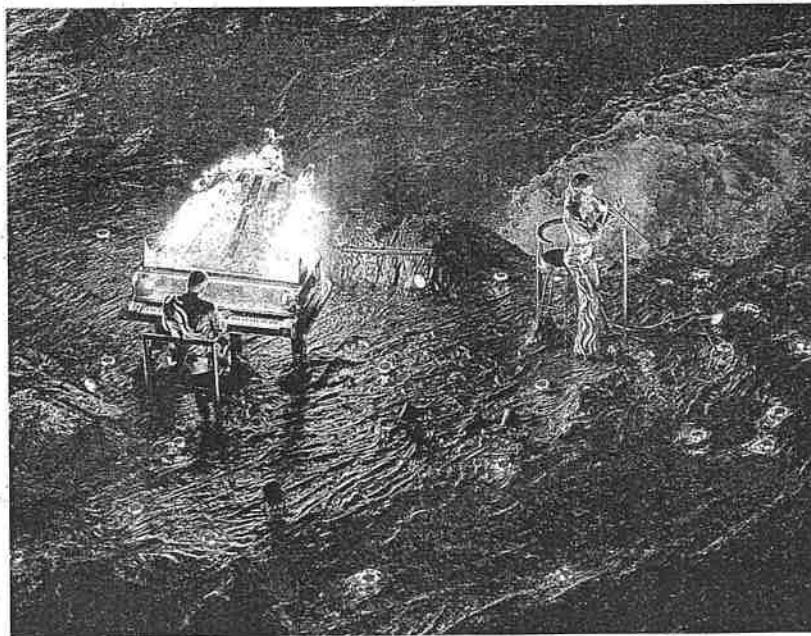
で8組1位となり、3回戦に進んだ。東京五輪銀メダルの五十嵐カノア(木下グループ)は4・17点で3組3位、オレアリー・コナーは9・93点で4組2位となり、ともに2回戦へ。
女子の松田詩野(TOK IOインカラミ)は11・16

「午後2時。いよいよ選手団の入場であります」。1964年10月10日、私は小学6年生だった。以来全ての五輪の開会式をテレビで見ただが、最初の東京大会ほど見事な開会式はなかった。

ロケットマンが空を飛ぼうが、女王陛下が飛行機からダイブしようが…。真っ青な空の下、世界の若者たちが鮮やかな衣装をまとい、胸を張って堂々と行進した姿ほど美しいものはなかった。

それを生家の小さな電器店のカラーテレビで見た私は、周囲の20人ほどの大人たちが、全員笑顔で涙を流していたことを今も強烈に覚えている。終戦後、わずか19年の出来事だった。

そんな体験のせいなのか、今回の開会式も特に感慨は湧かなかった。陽気な若者たちを乗せた船が、美しいパリの街並みを背景にセーヌ川を進み、



セーヌ川で行われたパリ五輪の開会式で、燃え上がるピアノと「イマジン」の演奏=26日、パリ(ロイター=共同)



たまき・まさゆき 1952年京都生まれ。東大中退。雑誌記者を経て、スポーツや音楽の評論家。「スポーツとは何か」など著書多数。

有名アーティストが河岸や橋上で歌い、踊る。史上初のスタジアムを離れた開会式もこんなものか、と思った次の瞬間、息をのんだ。川の上のステージで、女性歌手がピアノをバックに、ジョン・レノンの「イマジン」を歌い出したのだ。

大意は「みんな、想像して。国なんて存在しない。宗教も。全ての人が平和に暮らす世界を想像して。そして世界は一つになる…」
イマジンは今後、開会式で必ず歌われる、と放送が告げられた。「すごい」と思わず声を上げた。

金権商業主義の五輪関係者の誰がこの歌を採用したのかは知らない。が、この歌詞を参加者全員が声をそろえて歌うようになれば、オリンピックの唱える平和は、初めて実体を伴ってくるだろう。アスリートの方も歌の力も小さくないのだから。

足しも肺に刺さる。善戦に満足。「もつと、すごい」イマジンを見ていて、続く戦いへ視線を



ロ

敗者復讐 広内・大五

28日の軽量級ル予選で、女子(明治安田)大イリスオーヤマ39秒17の2組5宮浦真之、古田(TT東日本)はの1組5着とな29日の敗者復讐した。

(ヘルシユルマル)男子軽量級ダブル「1組」①スイス本(宮浦、古田)6復讐戦へ
女子軽量級ダブル「2組」①ルーマニア(広内、大石)敗者復活戦へ



カ、スニ

(ヘルシユルマル)男子カナテディア①ジェスタン(フ点)③羽根田卓也(ミ点)準決勝進出
女子カヤックシング・フォックス(J・フォックス)兼矢沢亜季(昭和飛行)06・01準決勝